

ふるさと御所 文化財探訪

其の十二

弥生時代 〈8〉
「三國志」と古墳
出現前夜の倭国

生涯学習課文化財係
☎内線696

最近話題の映画「レッドクリフ」で知られ、小説やドラマ、さらには漫画やゲームでも親しまれる「三國志」。元は「魏」に続く朝廷「晋」に仕えた陳寿という人が編纂した中国正史です。
その「三國志」によれば、「蜀」の丞相「諸葛亮孔明」は234年に五丈原の陣中に没します。「孔明」の最大のライバルとして描かれる「司馬懿仲達」は、「蜀」による脅威がなくなつたことを見越し、「魏」の景初二年（238年）には、「孫権仲謀」の「呉」が援助していた公孫氏政權を伐ち、遼東半島を平定して、楽浪郡・帯方郡を接收します。

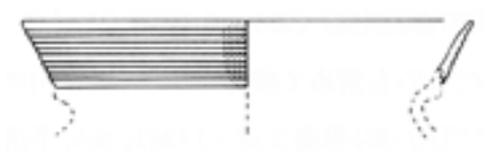
倭の女王「卑弥呼」は外交感覚にも長けた人物だと評価されています。それは楽浪郡・帯方郡の接收により「魏」へのルートが確保できた翌年の景初三年（239年）に、早くも「魏」への遣使を行っている（三國志魏書東夷伝倭人条）いわゆる魏志倭人伝）ことにより、このとき卑弥呼に対し、「親魏倭王」の金印が帯方太守を通じることとして仮授され、このほか銅鏡百枚などが送られました。また翌、正始元年（240年）には今度は「魏」の使いが倭国にやって来てさまざまなものを「卑弥呼」に与えています。こうした関係はその後、正始四年（243年）、正始六年（245年）、正始八年（247年）と隔年で取り結ばれました。
中国朝廷への遣使という外交上の大きな動きに加え、倭国内でも大きな動きが生じます。弥生時代の拠点的大集落の環濠は埋め立てられ、多くの拠点集落は解体する一方、新たに広域流通を担う集落が登場してきます。それは近畿地方に各地の土器が持ち運ばれることによって象徴的に示されますが、とりわけ奈良盆地内のこの時期の集落には山陰・中国・四国など西日本の土器に加え、東海・北陸さらには関東地方の土器までも持ち運ばれており、これによってその地域の人々の奈良盆地への流入が想定されています。



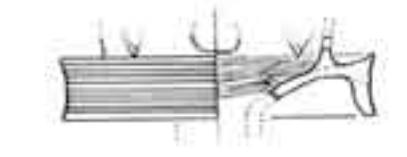
東海系



南関東系



吉備系



北陸系



北部九州系



檜原遺跡出土の、遠隔地からもたらされた土器

御所市内の遺跡では檜原遺跡において北部九州、東部瀬戸内、近江、伊勢湾岸、北陸、南関東系の土器が知られ、また、昨年実施された京奈和自動車道関係発掘調査では茅原地区や玉手地区で東海系、山陰系の土器が出土しています。
広域流通を担うこの時期の代表的な集落遺跡に桜井市纏向遺跡があり

ます。大規模な護岸水路、祭殿とみられる建物、特殊な出土遺物の存在、さらに纏向弥生墳墓群（古墳群）を擁する纏向遺跡は、女王「卑弥呼」が都する「邪馬台国」の最有力地と目されており、昨年度からその中心部の発掘調査が進められつつあります。今後の動向に注目したいと思います。